

平成29年度(2017年度) 建設コストの計画と実績

債務引受限度額と会社から引き受けた債務との対比を下記に示します。  
 平成29年度に完了した事業について、計画と実績に差が生じた主な理由は、現地状況に合わせた工法の見直し、地元・関係機関等との協議による見直し、工事数量等の確定(精算)によるものです。  
 平成29年度に完了しなかった事業について、計画と実績に差が生じた主な理由は、新設・改築事業では附帯工事等の工事が平成30年度以降に残ったこと、利便増進事業(スマートIC)が平成30年度以降計画的に実施されること、修繕事業や特定更新等工事では工事発注の見直し等で機構への帰属を平成30年度以降としたこと、災害復旧事業では過去の実績をもとに、料金徴収期間満了までに必要となる額が債務引受限度額として計上されていることによるものです。

[単位:百万円(消費税込み)]

道路名(区間名)	債務引受限度額(計画)(A)	債務引受額(実績)			(D)-(A)	債務引受限度額と債務引受額の差額についてのコメント
		平成28年度まで(B)	平成29年度(C)	計(D)=(B)+(C)		
第二東海自動車道横浜名古屋線 海老名南JCT～厚木南IC新設事業	103,089	0	53,884	53,884	△ 49,204	・差額は、財産整理等の残事業に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、海老名南JCT～厚木南IC間供用に要した費用。
第二東海自動車道横浜名古屋線 秦野IC～御殿場JCT新設事業	561,144	0	2,756	2,756	△ 558,387	・差額は、施工中の本線工事等に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、駒門PA(下り線)移設に要した費用。
第二東海自動車道横浜名古屋線 御殿場JCT～長泉沼津IC新設事業	135,753	127,858	5,970	133,828	△ 1,924	・差額は、工事等数量の精査等による減。
第二東海自動車道横浜名古屋線 長泉沼津IC～浜松いなさJCT新設事業	969,487	897,965	26,913	924,878	△ 44,608	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、残事業の一部完了に要した費用。
第二東海自動車道横浜名古屋線 浜松いなさJCT～豊田東JCT新設事業	629,447	523,786	31,937	555,724	△ 73,722	・差額は、財産整理等の残事業に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、残事業の一部完了に要した費用。
中央自動車道富士吉田線 高井戸IC改築事業	50,468	0	384	384	△ 50,083	・差額は、施工中であるIC改築に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、附帯工事の一部完了に要した費用。
中央自動車道富士吉田線 八王子JCT改築事業	8,387	6,622	722	7,344	△ 1,042	・差額は、工事等数量の精査等による減。
中央自動車道西宮線 養老JCT改築事業	3,923	0	2,233	2,233	△ 1,689	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、養老JCT改築に要した費用。
一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道) 海老名IC～相模原愛川IC新設事業	91,189	61,945	7,758	69,704	△ 21,484	・差額は、附帯工事等の残事業に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、残事業の一部完了に要した費用。
一般国道468号(首都圏中央連絡自動車道) 高尾山IC～八王子JCT新設事業	26,458	19,599	4,675	24,274	△ 2,183	・差額は、工事等数量の精査等による減。
一般国道475号線(東海環状自動車道) 豊田東JCT改築事業	421	173	32	206	△ 214	・差額は、工事等数量の精査等による減。
中日本高速道路株式会社が管理する高速道路に係る高速道路利便増進事業に関する計画(スマートIC)	68,005	20,926	10,905	31,832	△ 36,172	・差額は、施工中のスマートICに要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、4箇所の供用及び7箇所の本完了に要した費用。
中央自動車道西宮線 小黒川スマートIC改築事業	898	0	887	887	△ 10	・差額は、工事等数量の精査等による減。
一般国道475号線(東海環状自動車道) 養老JCT～東員IC新設事業	27,708	0	2,509	2,509	△ 25,198	・差額は、養老IC～東員IC間等の工事に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、養老JCT～養老IC間供用に要した費用。
中央自動車道西宮線 駒ヶ岳スマートIC改築事業	1,087	0	1,038	1,038	△ 48	・差額は、スマートIC残事業に要する費用。 ・平成29年度の債務引受額は、駒ヶ岳スマートIC供用に要した費用。
中央自動車道富士吉田線等 平成29年度修繕事業	92,467	—	61,858	61,858	△ 30,608	・差額は、修繕計画の見直しにより次年度以降に債務引受する費用。
中央自動車道富士吉田線等 災害復旧事業	81,464	19,527	335	19,863	△ 61,600	・差額は、平成30年度以降の災害対応に要する費用。
中央自動車道富士吉田線等 平成29年度特定更新等工事	66,901	—	14,637	14,637	△ 52,263	・差額は、特定更新等工事計画の見直しにより次年度以降に債務引受する費用。
一般国道158号(中部縦貫自動車道(安房峠道路)) 平成29年度修繕事業	609	—	158	158	△ 450	・差額は、修繕計画の見直しにより次年度以降に債務引受する費用。

注1)平成29年度(2017年度)に債務引受けを行ったものについて、継続中事業を含めすべて記載している。なお、は、平成29年度に完了している新設・改築事業である。

注2)端数処理の関係上、計が含まないことがある。

注3)修繕事業に関する債務引受限度額(計画)は、平成29年度までの債務引受限度額(計画)の累計から、平成28年度までの債務引受額(実績)を控除している額である。

注4)特定更新等工事に関する債務引受限度額(計画)は、平成29年度までの債務引受限度額(計画)の累計から、平成28年度までの債務引受額(実績)を控除している額である。